

## 令和5年度広島県献血推進審議会議事録（概要）

- 1 日 時 令和6年2月1日（木） 14時30分から15時50分まで
- 2 場 所 広島市中区千田町二丁目5番5号  
広島県赤十字血液センター2階研修室
- 3 出席委員 16名（○：会長）  
西本 博之 委員（広島県議会 議員）  
杉原 清香 委員（広島大学原爆放射線医科学研究所 助教）  
○落久保 裕之 委員（一般社団法人広島県医師会 常任理事）  
福岡 誠志 委員（広島県市長会 代表）  
北原 加奈子 委員（広島県 健康福祉局長）  
田中 勲 委員（広島県公立高等学校長協会 副会長）  
石原 政将 委員（日本労働組合総連合会広島県連合会 副事務局長）  
藪本 敬士 委員（JAM山陽広島県連絡会 会長）  
横山 鉄幸 委員（公益社団法人広島県労働基準協会 専務理事兼事務局長）  
佐藤 均 委員（一般財団法人広島県環境保健協会 理事長）  
小池 英樹 委員（社会福祉法人広島県社会福祉協議会 常務理事兼事務局長）  
岩上 譲治 委員（公益財団法人広島県交通安全協会 専務理事）  
鉄村 忠基 委員（広島市献血推進協議会 副会長）  
田中 知徳 委員（福山市献血推進協議会 委員）  
坂井 浩明 委員（日本赤十字社広島県支部 事務局長）  
麻奥 英毅 委員（広島県赤十字血液センター（以下「血液センター」） 所長）
- 4 議 題 ◎報告事項  
・広島県の献血状況  
・令和5年度広島県献血推進計画に対する実施状況  
・赤血球及び血液製剤の在庫状況  
・県内の献血の現状について  
◎審議事項  
・令和6年度広島県献血推進計画の策定について
- 5 担当部署 広島県健康福祉局薬務課製薬振興グループ  
TEL（082）513-3223（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容 報告事項及び審議事項について事務局が説明し、委員からの意見、質問に答えた後、令和6年度広島県献血推進計画について審議し承認された。
- ◎報告事項  
・広島県の献血状況及び令和5年度広島県献血推進計画に対する実施状況について、事務局（広島県健康福祉局薬務課（以下「県薬務課」））から令和5年度広島県献血推進審議会資料により説明。  
[質問・意見等]

(西本委員)

血液の確保量及び献血者数について、本県は他県より多いという説明もあり、目標を達成しているという事ですが、実際に血液が不足しているのであれば、目標が低いのかなと思うのですが。

(事務局(血液センター))

報告については、あくまでも年間を通しての達成状況でございます。血液には有効期限がありますので、一ヶ月ごとの必要量を集める必要がございます。冬場は、体調を崩される方が増え協力者が少なくなり、不足という表現が適正かどうかではありますが、献血量が低くなる時期もありますので、ご理解をいただければと思います。

(落久保会長)

広島県の転出数が非常に多くて、日本で一番と報道されています。若年層の転出、高齢者の死亡等ということも含めて、これに対して中長期的にどのように考えているか、準備というものがあれば教えていただきたい。

(事務局(血液センター))

若年層の啓発も含めてですが、献血者数が全国的にも減少傾向ですので、社を挙げて来年度早々、イベントやキャンペーンを計画しているところがございます。また、配車台数、献血セミナーについても献血に触れ合う機会を増やしていく考えでございます。コロナ前に回復するよう努めます。

- 赤血球及び血液製剤の在庫状況及び県内の献血の現状について、事務局(血液センター)から令和5年度広島県献血推進審議会資料により説明。

麻奥委員(血液センター所長)から挨拶。

この機会をいただいて、ひと言ご挨拶を申し上げたいと思います。

審議会委員の皆様には、日頃より献血推進にご尽力をいただきまして、ありがとうございます。先程の説明にもありましたように、コロナを機に若年層の献血者が急速に減少しております。流出が多いという事は、まだ若者が他県より多いと捉えております。若年層の献血者数の減少というのは、献血に対する関心が薄れているというのが一番の原因であり、これに拍車をかけたのがコロナ禍であったと捉えております。

日本の医療というのは、医療従事者だけが支えているのではなくて、特に献血に関しては、国民、県民全員がボランティアで支えられております。我々の力不足ではありますが、アピールが足りないと感じております。当センターとしましては、このアピールを含めて、今後、献血に関心を持っていただけるよう取り組んで参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

[質問・意見等]

(西本委員)

P T A、子ども会の方が協力してくださっているという事ですが、広島県のP T A連合会を介して各市町のP T Aをお願いしているのか、単独によるものなのか確認として教えていただきたい。

(事務局(血液センター))

こちらに関しては、広島市のPTA連合会会長からのご提案が発端で始まり、学区によって30~40代の保護者のネットワークを通して取り組みをしていただいております。

(西本委員)

広島市のPTA連合会から発信しているという事で、非常に良い取り組みだと思います。広島県のPTA連合会トップから発信すると各市町のPTA連合会のトップにも情報が届くので、引き続き、取り組むことで献血者が増えるという思いがします。

2点目、地域のライオンズクラブの活動に同席させていただき、活動について感心するとともに、ありがたいと思っています。ただ、場所を工夫するところといった活動の向上が見込めると思います。また、献血へのお礼について、若年層をターゲットにするのであれば、自尊心を高める、献血をしたと参加したことを表現できる、若年層が好むグッズに変えていくことで若年層を取り込むこともできるのではないかと思います。

(落久保会長)

ありがとうございました。

私からですが、血液には有効期限があるという事は、使われず廃棄される血液が少なからず存在すると認識しております。離島や県北東部においても必ず在庫というものも必要ですし、在庫が必ず輸血に使われることもないという事は、医療現場としては考えられるのかなと思いますので、その量を今後教えていただければと思います。

(事務局(血液センター))

承知いたしました。

#### ○審議事項

- ・令和6年度広島県献血推進計画の策定について、事務局(県薬務課)から広島県献血推進審議会議案書及び令和5年度広島県献血推進審議会資料により説明。

[質問・意見等]

(落久保会長)

量が増えていくというのは、高齢者が増えると自然増として献血量が増えるという認識で良いですか。

(事務局(血液センター))

はい。

(落久保会長)

2040年頃までは、高齢者が増えていくということなので、先を見据えた計画を検討していただければと思います。

(西本委員)

麻奥委員も言われましたが、若年層の献血に対する関心が薄まっているという中で「なるほど献血」や「献血セミナー」等の若年層の取り組みを実施してい

るが、教育委員会が教育のひとコマとして早くから教えていく、関心を高めていくという活動について、将来的に検討していただければと思います。

- ・令和6年度広島県献血推進計画について審議し、原案どおり承認された。

○その他  
[質問等なし]

審議会終了

## 7 会議の資料名一覧

- 令和5年度広島県献血推進審議会次第
- 令和5年度広島県献血推進審議会資料
- 広島県献血推進審議会議案書